■下岡蓮杖　　幕末に苦労して写真術を修得，職業写真家の開祖になったが，維新後は色々挑戦の末信仰の道へ。
しもおかれんじょう
ｼｰﾎﾞﾙﾄ来日・1823＝　　伊豆下田で，浦賀船改御番所の判問屋桜田与惣右衛門の三男に生まれる。通称久之助。

ｼｰﾎﾞﾙﾄ事件・1828＝ 5歳：農家土屋善助の養子となる。

鼠小僧磔・・1832＝ 9歳：

滑稽+人情本 1835＝12歳：_絵師を志して江戸に出たが，師匠が見つからず，日本橋のたび問屋に奉公すると，直ぐに信頼されるが，
無礼な客に憤慨して下田に帰る。
大塩平八郎乱1837＝14歳：_実父の関係で砲台付の足軽にかりだされ，砲台付同心頭畑繁八郎と知り合って砲術を習ううち，

_その弟が狩野董川の門弟であることがわかると，足軽を辞めて，再び江戸に出て入門。

天保改革始・1841＝18歳：
_熱心に絵画を学んでいたが，

天保改革終・1844＝21歳：_師匠の使いで島津藩の屋敷へ行った時，オランダ船によってもたらされた銀板写真を見せられ，そのすば
らしさに感銘して，画業にも手がつかなくなり，師匠が快諾してくれたので，
阿部正弘首座1845＝22歳：_下田に戻って，再び足軽となり，異国船の機会を待つ。
孝明天皇・・1846＝23歳：_アメリカ軍艦が久里浜沖に錨を下ろした際，命じられて艦全体図を描くも，言葉が通じず，

_その後も，異国船が来航する都度，艦模写に携わるも，写真のことを知る機会は訪れず，
国定忠治磔・1850＝27歳：
_ノイローゼ気味になっていたところ，ある日，突然師匠を捨てて来たこと恥じ，

ペリー来航・1853＝30歳：_再び江戸に戻って，蓮杖と号し，画家として名を成す。
開国開港・・1854＝31歳：_安政の大地震で実家を失ったりするものの，写真のことも忘れず，

松下村塾・・1856＝33歳：_下田にアメリカの領事館ができると，早速戻って，下田奉行所の領事館担当になり，直ぐにハリス領事の
通訳ヒュースケンと親しくなって，写真撮影の技術を学ぶも，通訳では専門的なことまでは無理で，

安政の大獄・1859＝36歳：*横浜開港に伴って，神奈川奉行所に移り，その職を解かれると，外国人居留地の店に雇われて住み込み，
日本で写真館を開こうとしていたアメリカの写真師ウンシンの助手から湿板を学び,彼が経営に失敗して帰
国する時，絵と引き換えに機械と薬品を譲ってもらった。その後，研究に没頭し，食うや食わずの苦労の末
，ついに技術を会得，
桜田門外変・1860＝37歳：
生麦事件・・1862＝39歳：_横浜に写真館を開設した。当時の日本人は写真を忌み嫌ったので，
8月18日政変 1863＝40歳：*場所を変えて，外国人を相手とし，自らの絵を土産として，経営を軌道に乗せることができ，さらに，広
く日本人の客も来るようになって繁盛し，大きな財産を築く。
薩摩藩士密航1865＝42歳：妻の静養のため，一旦店を閉めて，下田に帰る。
大政奉還・・1867＝44歳：再び，横浜に出て，_店舗を新築，横浜名物になり，ますます繁盛する。
明治維新・・1868＝45歳：
_写真のほか新しいもの好きで，すでに石版印刷の創始者としても知られていたが，さらに，
戊辰戦争終・1869＝46歳：_乗合馬車営業などの事業や，
学問のすすめ1872＝49歳：_牛乳販売などにも手をだしたりし，
明治6年政変 1873＝50歳：
_本業も次第に振るわなくなると，
佐賀の乱・・1874＝51歳：_洗礼を受けてキリスト教徒になり，
三つの反乱・1876＝53歳：浅草に移住して，*写真館も廃業。
西南戦争・・1877＝54歳：

明治14年政変1881＝58歳：

帝国大学始・1886＝63歳：

帝国憲法発布1889＝66歳：

日清戦争始・1894＝71歳：
日清戦争終・1895＝72歳：

_キリスト教の信仰と画筆を楽しむ余生を送って，

日露戦争始・1904＝81歳：
第一次大戦始1914＝91歳：_没した。
蓮杖の写真館開設は長崎の上野彦馬の写真館とともに，日本における写真発展の基礎となった。

「人づくり風土記(静岡)」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，